

安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.24 2015.6.3
TEL71-2466

穂高会館リニューアルオープン



平成25年9月からの穂高会館耐震補強等改修工事が完了し、3月29日、竣工式が行われた。

講堂での式典後、穂高会館正面入口前でテープカットが行われ、アリーナでアトラクションとして地元の中学生によるバスケットボールの交流試合や市内2団体によるYOSAKOI演舞が披露された。

実質オープンの4月1日、朝8時30分から大勢の市民の皆さんが窓口に並び、午前中は大変な



※穂高会館は、公民館と体育館の複合施設です。

ぎわいだった。エレベーターの新設、トイレ設備の改修、駐車場の増設などが行われ、リニューアルされた。また、アリーナの照明がLEDに替わり、より利用しやすい穂高会館になった。工事開始以来、1年半ぶりに生き生きとよみがえった穂高会館を多くの市民の皆さんにご利用していただきたい。

市民の芸術作品集まる

安曇野市総合芸術展開く

3月6日(土)18日に豊科交流学習センター「さほう」多目的交流ホールで「第4回安曇野市総合芸術展」が開催され、市内外から746人が訪れた。

昨年までは募集作品を展示していたが、なかなか作品が集まらず、一部のジャンルに偏ってしまっただけ、今回は公民館との一体感の醸成を図ることを目的に、昨年の秋に開催された各地域の文化祭の出展作品を展示した。

作品は、絵画、写真、書道、水墨画、彫刻・彫塑、工芸などの分野から全89点が集まった。また、豊科近代美術館で開催されていた「友の会」の絵画部展と同期間に開催し、連絡通路を開放したことにより多くの作品を鑑賞できる機会となった。

来館者からは「素晴らしい作品ばかり」「各地区の作品が、一カ所に集まったのが良かった」などの言葉が寄せられた。

「さほう」には大勢の中高生が学習のために来館していたが、鑑賞していく学生は少なく、もっと若い世代の人にも関心を持たせる工夫が必要だ。今回の意見や要望を参考にし、



彫刻・彫塑



工芸



書道



写真

今回はさらに来場者数を増やし、ますます充実した芸術展にして安曇野市の芸術・文化の発展に貢献することを目指す。

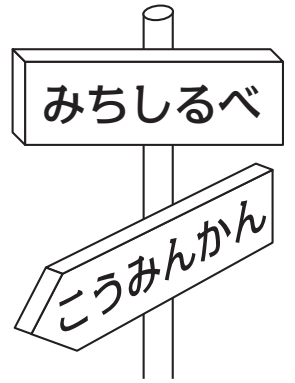
「この世に生きる理由」というタイトルで作詞作曲。作品は、飯沼信義さんの補作編曲により二部合唱に仕上げられ、豊科地域コーラスグループの皆さんが美しいハーモニーで披露した。

例年、豊科公民館ホールで多くの合唱グループが交流しながら発表を行うのだが、改修工事のため今回は企画を変更し、2つのグ

とよしな
豊科交流学習センター「きぼう」で開催された。コンクール最優秀賞は、明南小学校4年生の堀田さん。

童謡祭り 作詞作曲コンクール

絵：加々美 豊
花：ヒナゲシ



花園共同保育園の園児の歌声

ループの演奏を聴き、最後に全員で合唱した。

最初に登場したのは、花園共同保育園の園児たち。手話を交えて可愛らしく歌う様子に、会場一同目を細めながら、見つめていた。

一緒に踊ろう



誰でも簡単に楽しく踊れます

穂高公民館の講座最初のプログラム「初心者フォークダンス教室」が4月17日、穂高公民館講堂で始まった。毎週金曜日(5月22日を除く)午後7時から9時まで同会場で開催される(全10回)。講師は日本フォーク



安曇に戻った明科

4月28日、明科公民館で、明科いいまちサロンの例会が行われた。講演会では市文化財資料センターの大澤慶哲さんが「安曇に戻った明科」と題して話され85人が熱心に聴いた。平安時代までは明科の生活圏は、安曇の豊科、穂高であった。平安の終わりがくると郡境の見直しがあり、明科は筑摩郡に移り、それから千年を経て町村合併で再び安曇に戻った。

明科廃寺跡の発掘で分かったことは、飛鳥時代の7世紀後半に豪族の権



親子で遊ぼう

三郷公民館は4月17日、同館講堂で「ひまわりクラブ」の開講式を開き、40組余りの親子が出席した。満1歳から入園前の幼児と、その保護者が週1回、午前10時から午

ダンス連盟公認指導者の清水均さんと清水晴子さんが務める。初回のこの日は、市内各所から28人の男女が参加した。「フォークダンスの基礎知識」をまとめた模造紙を用いて初心者向けに分かりやすい解説も途中行われ、「ジャンケンおまわり」など全5曲をみんな楽しく踊った。



威を知らしめるために七堂伽藍しちどうがらんを備えた寺院が造られた。付近には豪族の屋敷や郡の役所なども置かれていた。

出土品の瓦から飛騨古川寿楽寺との関わりが分かり、木型の傷の箇所が同じことから明科廃寺と関係のあることが分かったなど、興味のある話が広がられた。



後1時ごろまで自然の中での遊びや行事を通し、親子の絆を深めている。班編成をして自己紹介の後、親子や子ども同士が楽しく遊べるように今後の予定を話し合った。参加した親子は、みんな、体操「わくお！」を楽しみ、早速遊具で遊ぶなどして過ごした。



⑰ 岩原・山神社

古きを尋ねて

岩原の山神社は、烏川溪谷の入口、須砂渡地籍の山腹に建つ山の神社である。文献に残る山神社の最古の記述は寛文年間(1661～1672)江戸時代初期の本殿建立の記録がある。寛政4年(1792)には本殿の建て替えに20カ村の出資の記述が、山口裕さん(旧大庄屋山口家当主)所蔵「山神本社建替覚帳・別当大同寺」に記載されている。山神社が岩原の産土神になったのは昭和38年(1963)で、当時の氏神は上堀諏訪社であったが全28村の調印により氏子から離れた。戦国時代以前、現在の場所に移されたといわれる祠は山元の一部の人に祀られていたと伝わるが、入会制度による薪、刈敷の入会権を持つ豊科、三郷まで及ぶ18カ村と、堀金の山元5カ村の23カ

村が安全祈願のため祀っていた。山神社は、烏川の対岸、牧地籍にあった説が伝えられる一方、江戸時代まで烏川上流にあった大阪、小坂、大平、栃平集落付近に何代か前の祖先が居住していたという田口勝さん(元氏子総代)は、その付近に鎮座していたとも伝え聞くという。大水により流れ着いた岩原地籍の船着き場付近で引き揚げ現在の場所に祀ったとされる。諸説を岩原自然と文化を守り育てる会(百瀬新治会長)の例会、学習会で文献を紐解いている。安曇野市の文化財に指定された例祭のお船曳きも神社と共に貴重な文化遺産になっている。岩原の祭神となつてから、青年だけで船を担ぐのではなく、当時、青年団長の藤原与一さん(元

せようと取り組む公園のビジョンを30人余りの参加者は、地域の目で工事状況を視察した。植生の保存、棚田の再生、地域との共生課題など、今後も活動を続けていく。

安曇野市スポーツ推進委員の三郷地域代表として、スポーツクラブの育成や実技指導にあたる。ニュースポーツの普及を掲げて三郷公民館が隔月週1回開催する『みんなDEスポーツinみさと』



氏子総代)は、地域の人心を取りまとめるため結成していた岩原親交会を例祭時、同会を祭典保存会として祭りを取り仕切る活動を請け負った。平成10年(1998)子ども船が造られ今に続いている。(山梨子)

原風景を残す



国営アルプスあづみの公園の建設用地内にある岩原地区の旧棚田地帯の開園工事が始まった。関係機関と、岩原地区公園対策委員会は3月16日、4月14日、地区住民に見学会を開いた。懐かしい故郷の昔の風景を後世に残し、多くの人に知ら

せようと取り組む公園のビジョンを30人余りの参加者は、地域の目で工事状況を視察した。植生の保存、棚田の再生、地域との共生課題など、今後も活動を続けていく。

私は一生懸命

安曇野市スポーツ推進委員の三郷地域代表として、スポーツクラブの育成や実技指導にあたる。ニュースポーツの普及を掲げて三郷公民館が隔月週1回開催する『みんなDEスポーツinみさと』

を企画から運営まで行い、指導もする。市全域で普及が図られている「ワンバウンドふらばるバレー」は、クラブを立ち上げ活動を開始した。また、本年度は新たに小学生を対象としたニュースポーツ教室を計画している。学生時代はバレーボール、社会人になってからは週1回のバドミントンを楽しむ。平成23年にスポーツ基本法が施行される以前から旧体育指導委員としてスポーツ推進活動をしてきた。近年は、地



安曇野市スポーツ推進委員 松田久雄さん (三郷・下長尾)

区公民館長や子ども会育成会の役員など地区役員が回ってきて、忙しい日常の中でスポーツ活動を続けている。

地区公民館だより

桜坂地区公民館

豊科光城山の麓に広がる北アルプスの眺望が素晴らしい「光ニュータウン」が桜坂区となったのは平成14年で新しい区だ。新しく開発されたため、比較的年齢層の若い世帯や地区役員が多い。

今回、お話を伺った公民館長の太田成昭さんも現役で働く子育て中のパパである。「公民館長になって、地域に馴染めるようになって良かった」とポジティブ思考で、公民館事業を行っている。太田さんは副公民館長を1年務め、翌年が公民館長就任の習わしのため、2年間の役員を無理せず楽しんでる様子だった。

光城山では毎年、桜の季節になると1500本ものソメイヨシノが麓から頂上へ昇るように咲いていく。大勢の花見登山客が訪れ、頂上からの景色にため息がでるような、安曇野市内でも有数の花見の名所である。区では千本桜プロジェクトを立ち上げ、桜の植樹や保全活動を行っている。鹿や猪なども出没する里山、桜の樹皮や新芽を保護している。

サークル活動が盛んで、「桜友会」というシニア世代サークル、「さくらキッズ」という未就園児



公民館に集う

親子サークル、ワンバウンドふらばゆるバレーのサークル、ソフトボールのサークルなど、活動を通して交流が盛んに行われている。青年部と育成会が中心となって行うサマイベントを地区内の公園で行い、子どもも大人も楽しんでいる。

昨年からはじめた小学校高学年の児童が公民館に宿泊するというサマーカーンプも好評で、参加者からは「ことしも絶対やってね!」という声があがっているという。県でも通学合宿を奨励しているので、公民館で宿泊するのはとても良い取り組みではないだろうか。

桜坂区といえば、あづみ野祭りで毎回入賞していて、とてもパワフルな踊りが印象的。青い法被にピンクの帯とはちまき、スタッフはピンクのTシャツでとにかく元気。毎年、豊科近代美術館に集合して衣装を整え、お化粧をして気合いを入れて踊り始める。みこしのちようちゃんが公民館の吹き抜けに飾られていたのが素敵だった。

グループ紹介

コール明科「40年の歴史」

「コール明科」の17人は月2回、第2と第4金曜日の午後8時から、明科公民館で練習に励んでいる。代表は今年から宮下ちづ子さん(上押野)。エクセラン高校を退職した元音楽教諭の隠岐美江子さん(木戸)は、指導を始めて13年になる。明北小、明南小の校歌から唱歌へ、ロシア民謡へとピアノが旋律をリードし、発声しやすくとめていく。

インドネシア民謡の「ママのそばで」を二部合唱で歌いたいと最近力を入れている。代表の宮下さんは「詞も曲も良くて感動する歌です」と熱っぽく語る。本年度の出演は、芸文協総会のアトラクションやあやめまつり、芸能まつりなど。また、「あいらす」「孝明館」「わっしょい」などの施設訪問をする。ステージの予定表には空気がない。

コーラスの前身は、明南小の母



練習の様子

親コーラスが源流になっている。「当時の福沢校長が指導されてから40年になる」と会員の大堀多喜子さん(明科)が説明する。宮下さんは「若い人の声が欲しい」と話す。「年齢に関係なくぜひ、入会を」と力を込める。

入会希望者は代表宮下 電話 62・25333まで。

櫻

新緑が深緑となり、雨があたってさらに美しい季節。森に育つ樹木は美しいだけでなく、大地に根を張り土地を守り、水を涵養し海を育てている。

一方で松枯れ被害で森を一掃しなくてはいけない事態も起こっている。

いる。

今、森に目を向け、みんなで育てる時期が来た。市の里山再生計画が策定され、里山再生サポーターの募集も始まっている。森に行き、ゆったり癒されながら、保全活動してみよう。(K・T)